

# SHIGA HEALTH REPORT



キバナコスモス

## CONTENTS

- 麻疹抗体検査成績 .....(1)
- 平成19年度定期健康診断の成績について .....(3)
- 自殺防止のために .....(5)

NO. 65

2007年10月発行  
滋賀大学保健管理センター

## 麻疹抗体検査成績

保健管理センター所長 山本 孝吉

今春、関東地区の大学を中心に、全国の大学生に麻疹が流行しました。これは麻疹ワクチン未接種者の存在や、麻疹流行が減少して、麻疹免疫へのブースト効果が以前ほどなくなっていることなどで、麻疹に免疫を持たない大学生が増加しているためとされています。本学でも2名の麻疹患者が出ましたが、罹患された学生と御家族、近隣医療機関や学内関係者の素早い確かな対応と御尽力により、大学内や教育実習先で感染が拡大しなかったのは不幸中の幸いでした。

保健管理センターでは以前から、麻疹流行の危険性について情報提供を行い、今春には抗体検査の実施を予定していました。そこに大学生における麻疹の流行と、特に教育実習などに参加する学生を介する感染拡大を阻止することを目的として、全学的に麻疹抗体検査が行われることになりました。受検者も当初の予定を大きく上回り、貴重なデータと思われるのでその成績を纏めておきたいと思えます。

### 対象と方法 ●●●

対象は、抗体検査を希望した学生・大学院生1,584名と、教職員の希望者32名です。

抗体検査の前に問診表(図1)を配布し、両親への問い合わせや母子健康手帳などで確認した上で記載するよう依頼しました。抗体検査は、デンカ生研製キットに用いるEIA-IgG抗体を外注して測定しました。

### 結果 ●●●

① 問診の結果、学生1,584名の中で、「麻疹罹患歴あり」は123名(受検者の7.8%)、「既往歴なし」1,185名で、残り276名は「不明あるいは無回答」でした。ワクチン接種については、接種歴なし119名、1回以上接種1087名(うち24名は2回接種)、不明あるいは無回答378名でした。一方、教職員32名では、「麻疹罹患歴あり」3名、「既往歴なし」22名、「不明」7名、ワクチン接種歴は、接種歴なし3名、1回以上接種16名、不明13名でした。

② 学生全体(1,584名)のうち、EIA-IgG陰性(抗

体価2未満)は1.8%、擬陽性(同2以上4未満)は3.7%で、陽性は94.5%でした。陽性者のうち、弱陽性(同4以上8未満)は全体の10.6%、強陽性(同8以上)は全体の83.9%でした。麻疹への抵抗性が十分ではないとされる抗体価8未満(陰性+擬陽性+弱陽性)の学生の割合は16.1%でした(図2)。教職員32名では、陰性、擬陽性者はなく、全員が陽性であり、1名の弱陽性者を除いて残りは全員強陽性でした。

③ 「麻疹罹患歴あり」の学生(123名)のうち、陰性は0.8%(1名)で、残りは陽性で、弱陽性4.9%、強陽性94.3%でした。一方、「既往歴なし」の1,185名では、陰性1.5、擬陽性3.7、弱陽性11.8、強陽性83%でした。麻疹罹患者はほぼ抗体を有し、そのほとんどが強い抵抗性を有していると考えられます(図3)。

④ 「麻疹既往歴なし」の学生の中で、ワクチン接種歴の有無が明らかであったのは1,057名でした。この中で、ワクチン接種歴なしと回答した学生は71名で、その抗体価の分布は、陰性9.9、擬陽性5.6、弱陽性7.0、強陽性77.5%であり、ワクチンを1回以上接種した986名では、陰性0.8、擬陽性3.7、弱陽性12.0、強陽性83.5%でした。ワクチン接種歴がない場合、接種歴がある場合に比し、抗体陰性の割合が高く、抗体陽性、抗体強陽性者の割合が低いことが示されました(図4)。なお、宮津<sup>1)</sup>によれば、ワクチン接種歴なく麻疹罹患の記憶もない成人の約80%は不顕性感染しているとされ、今回の成績は概ねそれに一致していると考えられます。

⑤ 抗体価の分布を年齢別にみると(図5)、抗体価8未満の学生の割合は年齢の上昇と共に低下する傾向が認められます。その原因は、26歳以上の群では、麻疹罹患歴を有する学生の頻度がやや高く、そのことが原因と思われる。一方、25歳未満の各群では、麻疹罹患歴やワクチン接種率との相関はなく、原因は明らかではありませんが、先程の不顕性感染がその一因であるかもしれません。

